

「科学・技術フェスタ」へ出展

出張

京都大学

アカデミックデイ

二〇一三年三月十六日(土)・十七日(日)

Kyoto
University
Academic
Day



「出張」京都大学アカデミックデイ

開催日時 2013年3月16日(土)・17日(日)

会場 京都パルスプラザ

- 目次
1. 概要
 - 1-1. イベント概要
 - 1-2. 支援体制
 - 1-3. スタッフリスト
 - 1-4. 会場配置図、ブース設計
 - 1-5. 参加研究者一覧
 - 1-6. 参加研究者向け事前説明会

 2. 対談内容の詳細
 - 2-1. 「研究者の〇〇の話」
 - 2-2. 「神話から百年後の未来を想像してみよう」
 - 2-3. 「人付き合いの心理と数理」
 - 2-4. 「理系×文系 ガチ」

 3. アンケート結果(ブース全体のまとめ)
 - 3-1. セグメント資料(アンケート用紙、分類表)

 4. 補足資料
 - 4-1. 「科学・技術フェスタ」概要

1. 概要

1-1. イベント概要

京都大学は、2013年3月16、17日に京都パルスプラザにて開催された「科学・技術フェスタ in 京都 2013」に出展しました。京都大学ブース「出張・京大アカデミックデイ」には、8名の研究者が参加し、2日間で延べ161名の来場者が訪れました。フェスタ全体の来場者数は2日間で延べ約6,000名でした(内閣府調べ)。

今回の出展は、京都大学による「国民との科学・技術対話」支援事業の一環として実施されました。平成24年度での「国民との科学・技術対話」ワーキングでは、以下のような議論がされました。「アカデミックデイでは学術基礎研究に関する対話だけではなく『社会における学術研究の位置づけ』など、他のモノについても対話をしかけてはどうか」「『研究を理解して欲しい』という態度では何も分かってもらえないと思う。『対話』をする事が大切」「京大流を出していきたい」「国民との科学技術対話は大学の『外』でもやる必要があるのではないか？」これらの議論を踏まえ、今回の出展では今までのアカデミックデイとは少し異なった企画を準備しました。

会場には、いわゆるポスターセッション的なブースが多く見られましたが、その中で京都大学のブースは、量によるほっこりとした場を実現し、突出した存在感を示していました。そのブースの中では、異なる研究分野の研究者同士の対談を2日間で4つ行いました。対談内容は研究成果についての話だけでなく、研究者になったきっかけや、普段の生活のことなど、研究「者」の魅力が感じられる対談となりました。また、対談の司会は京都大学の学生が行いました。学生の司会者や来場者からの質問やコメントも多く、講演会とはまた違った雰囲気での対話の場となりました。

広報や京都大学ブースのコンテンツは京都大学学術情報メディアセンター コンテンツ支援サービスによって制作しました。また、企画のデザインや運営は学術研究支援室（UR A室）及び研究国際部研究推進課、「国民との科学・技術対話」ワーキンググループと共同で行いました。また、物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）科学コミュニケーショングループの協力を得て来場者の方へのアンケート調査も実施しました。京都大学ブースにはどのような来場者の方が訪れたのか、つまり、どのような方と対話することができたのかを把握し、各研究者にフィードバックをすることで、今後の対話活動をよりよいものにすることを目指しています。

開催日時 2013年3月16日（土）・17日（日）（両日）10時～17時
会場 京都パルスプラザ



1-2. 支援体制

今回の出展は、京都大学による「国民との科学・技術対話」支援事業の一環として実施されました。支援体制は以下の通りです。

「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ委員

中辻 憲夫 物質－細胞統合システム拠点 教授

西村 いくこ 理学研究科 教授

北野 正雄 工学研究科 教授

伊勢田 哲治 文学研究科 准教授

川口 泰史 研究推進部研究推進課 課長

中村 一也 渉外部広報・社会連携推進室 室長

「国民との科学・技術対話」若手ワーキンググループ委員

白井 哲哉 学術研究支援室（URA室） URA

水町 衣里 物質－細胞統合システム拠点（iCeMS） 特定研究員

元木 環 情報環境機構／学術情報メディアセンター 助教

研究国際部研究推進課

吉元 幸司 研究国際部研究推進課 研究助成掛

中澤 泰彦 研究国際部研究推進課 研究助成掛

藤井 佳子 研究国際部研究推進課 研究助成掛

学術研究支援室（URA室）

白井 哲哉 学術研究支援室（URA室） URA

学術情報メディアセンター コンテンツ作成室

元木 環 情報環境機構／学術情報メディアセンター 助教

永田 奈緒美 学術情報メディアセンター 教務補佐員

物質－細胞統合システム拠点（iCeMS）

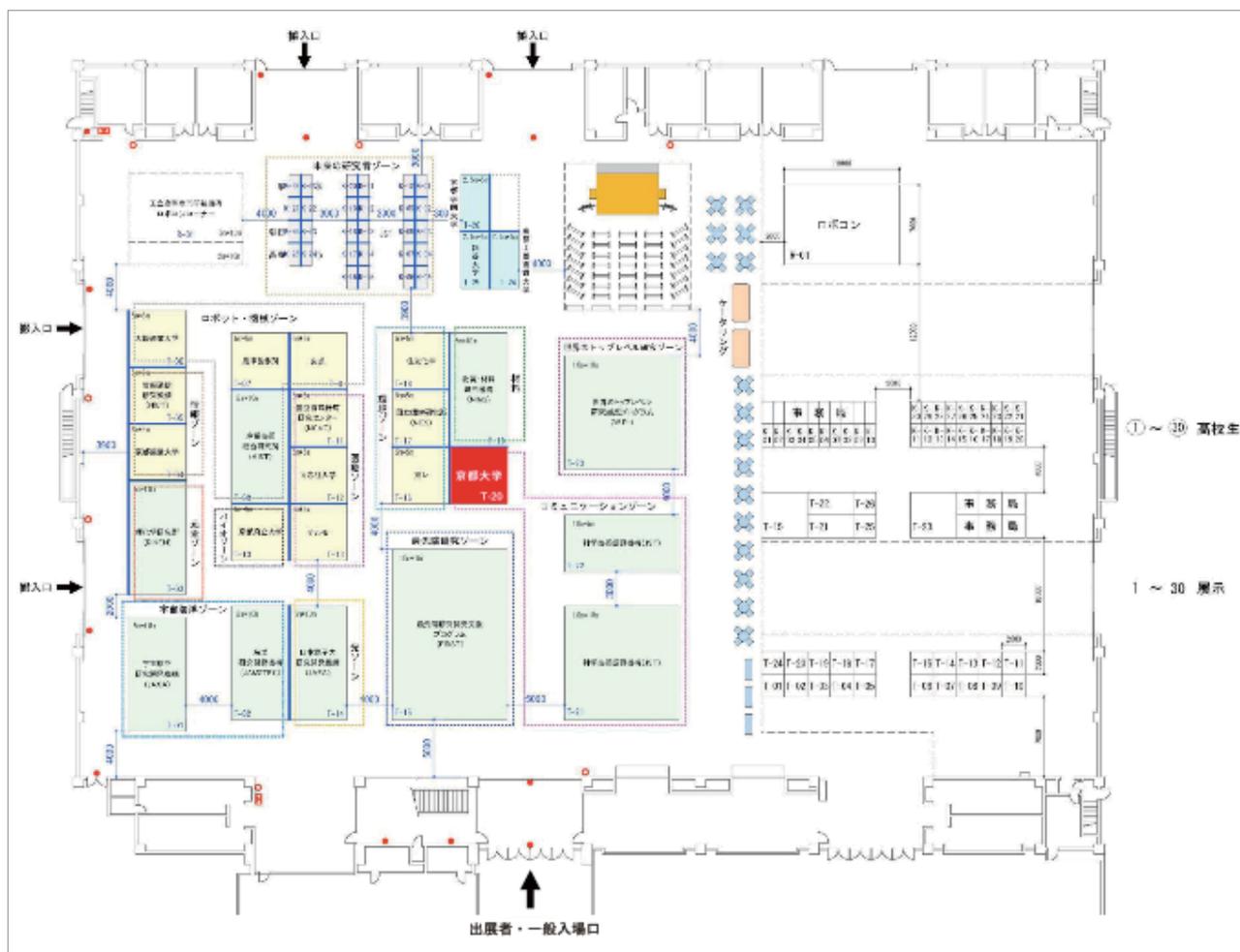
水町 衣里 物質－細胞統合システム拠点（iCeMS） 特定研究員

1-3. スタッフリスト

企画	「国民との科学・技術対話」若手WG 白井哲哉、水町衣里、元木環 研究国際部研究推進課 吉元幸司、中澤泰彦、藤井佳子
会場デザイン、手ぬぐいデザイン	学術情報メディアセンター コンテンツ作成室 元木環、永田奈緒美、奥村昭夫
当日司会	上野賢也（京都大学理学部 1回生） 成原隆訓（京都大学工学部 2回生） 石井杏佳（京都大学理学部 1回生） 西辻裕紀（京都大学大学院理学研究科 修士課程 1回生）
対談の記録	上野賢也（京都大学理学部 1回生） 成原隆訓（京都大学工学部 2回生） 石井杏佳（京都大学理学部 1回生） 西辻裕紀（京都大学大学院理学研究科 修士課程 1回生）
ブース設営	株式会社 伏見工芸
音響機器設置	有限会社アサヒ技研 コミュニケーションメディア研究所（八木啓介）
写真撮影	大森貴生
監修	「国民との科学・技術対話」WG

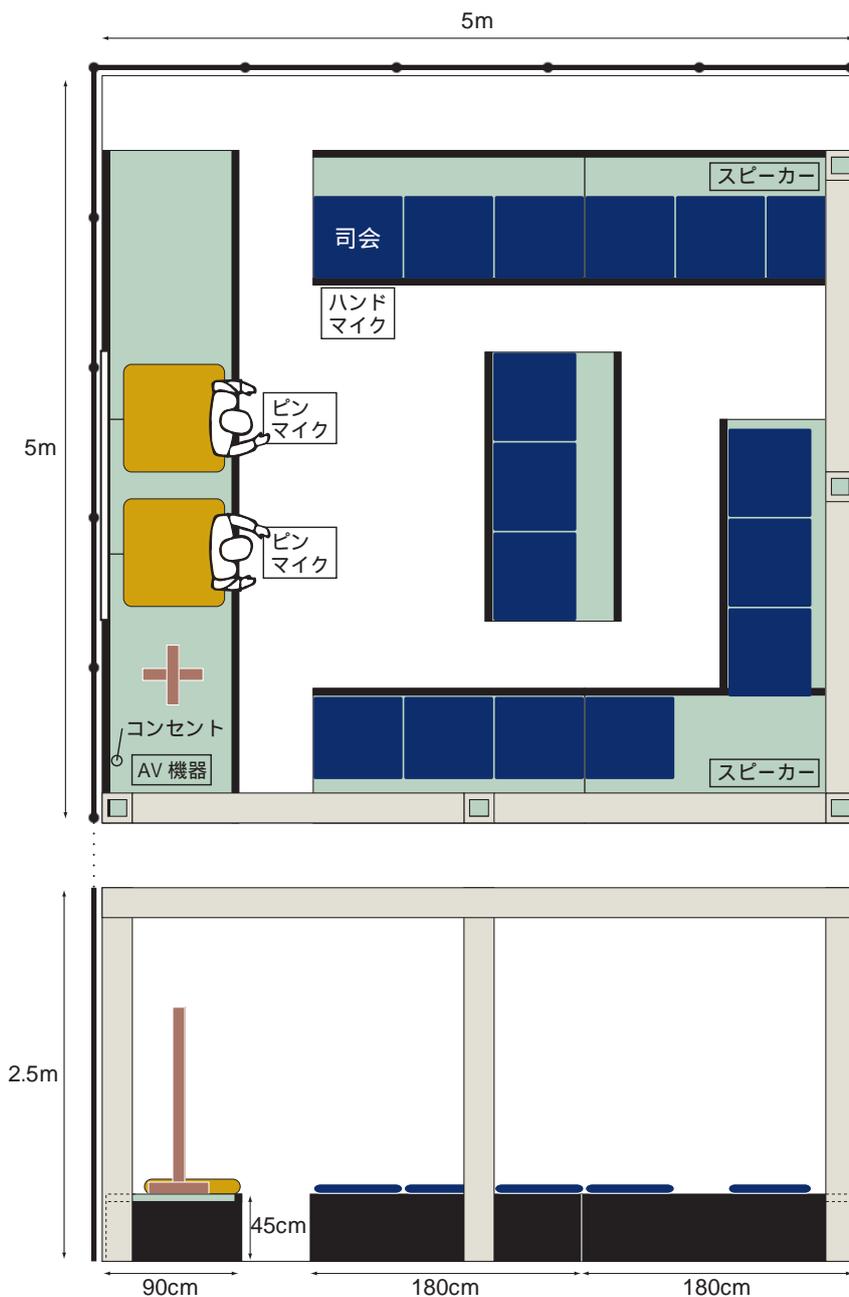
1-4. 会場配置図

■ 1-4-1. 科学・技術フェスタ イベントホール配置図

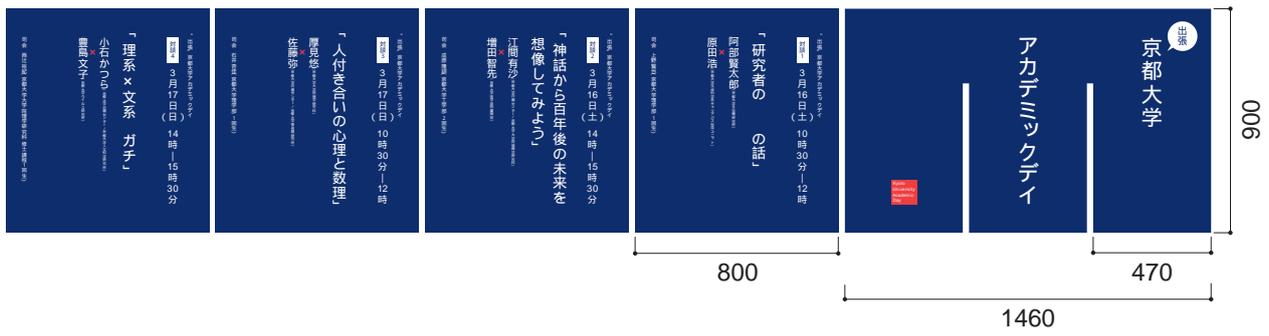


■ 1-4-2. 京都大学ブース配置図

京都大学ブース「出張・京大アカデミックデイ」の会場デザインは、学術情報メディアセンターコンテンツ作成室と学術情報メディアセンター奥村昭夫客員教授が行いました。畳やその台は総合博物館より、座布団は物質-細胞統合システム拠点（iCeMS）より借用しました。プロジェクタについては、日本電気株式会社（NEC）関西支社より、ご提供（無償レンタル）頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。なお、これらの備品の運搬や施行については、株式会社伏見工芸に発注依頼しました。プロジェクタ、マイク、スピーカなど AV 機器の設置には有限会社アサヒ技研に発注依頼をしました。写真による記録撮影は大森貴生氏に発注依頼しました。



■ 1-4-3. 科京都大学ブース内装「暖簾」



■ 1-4-4. 京都大学ブース当日風景



1-5. 参加研究者一覧

日時	対談タイトル	参加研究者
3月16日(土) 10時30分～12時00分	「研究者の〇〇の話」	阿部賢太郎 (京大大学生存圏研究所 生物機能材料分野 助教) 原田浩 (京大大学生命科学系キャリアパス形成ユニット 放射線腫瘍生物学 講師) 司会：上野賢也 (京都大学理学部 1回生)
3月16日(土) 14時00分～15時30分	「神話から百年後の未来を想像してみよう」	江間有沙 (京都大学白眉センター／京都大学大学院情報学研究所 特定助教) 増田智先 (京都大学医学部附属病院薬剤部 講師) 司会：成原隆訓 (京都大学工学部 2回生)
3月17日(日) 10時30分～12時00分	「人付き合いの心理と数理」	厚見悠 (京都大学大学院理学研究科 博士課程) 佐藤弥 (京都大学白眉センター／京都大学霊長類研究所 特定准教授) 司会：石井杏佳 (京都大学理学部 1回生)
3月17日(日) 14時00分～15時30分	「理系×文系 ガチ」	小石かつら (京都大学白眉センター／京都大学人文科学研究所 特定助教) 豊島文子 (京都大学ウイルス研究所 教授) 司会：西辻裕紀 (京都大学大学院理学研究科 修士課程 1回生)

1-6. 参加研究者向け事前説明会

「出張” 京都大学アカデミックデイ」の参加研究者は、学内から公募しました。参加研究者の事前準備をサポートし、本番での対話がより促進されることをねらって、2013年1月31日と2月6日には、「出張” 京都大学アカデミックデイ」の企画趣旨や非専門家との対話のあり方、対話を促進する方法などを紹介する事前説明会も開催しました。

事前説明会の内容：

- 1) 「国民との科学・技術対話」とは？
- 2) 異分野研究者同士の事例紹介
- 3) 対話カトレーニングプログラム

簡単なゲームを通じて、対話の中で起こりうるコミュニケーションのギャップを体験していただいたり、「対話」の目的を改めて捉え直したりしました。

- 4) 対談相手との顔合わせ

2. 対談内容の詳細

2-1. 「研究者の〇〇の話」

■ 2-1-1. 概要

対談タイトル：「研究者の〇〇の話」

登壇者：阿部賢太郎（京大大学生存圏研究所 生物機能材料分野 助教）

原田浩（京大大学生命科学系キャリアパス形成ユニット 放射線腫瘍生物学 講師）

司会：上野賢也（京都大学理学部 1 回生）

日時：3 月 16 日（土曜日）10 時 30 分～12 時 00 分

会場：京都パルスプラザ

参加者：33 名





■ 2-1-2. 対談レポート

まずは対談者お二人の自己紹介から。阿部さんからは、樹木の構造を元にした材料開発の研究について、原田さんからは、がんの発生における研究についてのお話がありました。自己紹介のあとは、司会者からランダムにお題（質問）が提示される形で対談が進みました。最初に出たのは「一番好きな本！」について。お二人のお話からは、研究者にはさまざまな本をいっぱい読む人もいれば、専門書以外はまったく読まない人もいること、またお二人ともマンガも良く読むことなどが語られました。マンガを読むといった身近な話題から来場者の表情も緩み、和やかな雰囲気になりました。

次は「京都大学のここが好き」。お二人とも、京都大学の「自由」な点についてのエピソードを語っていただきました。そして「研究の“やり方”を動詞にすると？」といったお題。ここで再び、お二人の研究のお話へ。がんの仕組みや、「繊維を含んだ氷」の強度といったお話など、わかりやすいエピソードを交えての研究の紹介に、来場者の方々からも質問が飛ぶようになりました。

続いてのお題は「夜型？朝方？それとも不眠不休？」。普段の一日の時間の使い方から、独身生活、結婚してからの生活の変化など、研究者の生活の片鱗が見られるお話をしていただきました。ここで、会場の学生から「どうして今の研究をするようになったのか？」といった質問が投げかけられました。お二人からは、小学校から持っていた理科への興味、高校で出会った先生のこと、また偶然によって今の研究室にいることなど、ご自身のエピソードを語っていただきました。また、お二人の経験から、企業での研究と大学での研究の違いや、日常には色々なテーマが隠れていて、どんなことにも疑問を持つことができることを紹介されました。

対談の最後には「研究者として一番大切なことは？」といったお題に。天才的な研究者ではなく、コツコツできる研究者でありたいこと、また自分の研究を10分でわかってもらえるようになりたいことなど、理想な研究者像や研究についてのお二人の思いを語っていただきました。

成原隆訓（京都大学工学部 2 回生）

■ 2-1-3. アンケート結果（研究者へのメッセージ）

- これからも頑張ってください（中学生）
- けっこう人間らしい生活してますね（マンガのイメージが…汗）（中学生）
- 学校で行われているRYS（論より証拠）という行事で来ましたが、こういう機会は少ないので貴重な体験ができたと思います（中学生）
- 非常によい経験になりました。また話したいです（高校生）
- 将来研究者になりたいので、日常の話とかを聞けて良い刺激になりました（高校生）
- なんかどこにでもいる人でも研究できるんだと安心できました。ありがとうございました！（高校生）
- 聞きやすく飽きない内容でした（高校生）
- コツコツ続けてください。明日のために、WHY?の答えのために（20代）
- 堅いイメージだった研究者の方の実像が聞けてすごく面白かったです

2-2. 「神話から百年後の未来を想像してみよう」

■ 2-2-1. 概要

対談タイトル：「神話から百年後の未来を想像してみよう」

登壇者：江間有沙（京都大学白眉センター／京都大学大学院情報学研究科 特定助教）

増田智先（京都大学医学部附属病院薬剤部 講師）

司会：成原隆訓（京都大学工学部 2回生）

日時：3月16日（土曜日）14時00分～15時30分

会場：京都パルスプラザ

参加者：44名





■ 2-2-2. 対談レポート

まずはお二人の自己紹介から。増田さんは薬について、薬の認可や新薬の確認をする研究について、江間さんからは「科学をしている人を科学する」研究について紹介がありました。自己紹介ではお二人が互いに質問する形で進みました。その中では、「いろんな人が関わってくると、科学技術にも倫理の問題などが出てくる、そこでどうやって議論してどうやって意思決定するのか？」といった江間さんの興味についても語られました。

次に対談のテーマ「神話から百年後の未来を想像してみよう」についての紹介がありました。何故このようなタイトルを付けたのか？それは「神話と科学を見て未来を考えるのはおもしろい！」とお二人が思ったからとのこと。会場では最初にギリシャ神話をモチーフにした一枚の絵が映されました。絵では罰として「肝臓」を突かれ続けている神が描かれていました。現代では、「肝臓」はかすある臓器の中で高い再生能力を持つことが知られていますが、なぜ昔の人はそれを知っていたのか？なぜ「肝臓」だったのか…。といったお題のきっかけになったエピソードが紹介されました。

臓器を移し替えるといったモチーフは4世紀ごろから使われているそうです。その中には臓器移植として、実現されているものもあれば、実現されていないものもあります。増田さんからは、そういった臓器移植の話から、切れた指が綺麗にくっつく話まで、現代の医療についてのエピソードを数多く紹介していただきました。また江間さんからの質問をきっかけに、対談は臓器移植の倫理問題にまで広がりました。

続いて、大正時代のロボットの絵や、未来の消火活動を描いた絵が映されました。消火活動の絵は2つあり、それぞれ過去に描かれたものでも国によって未来予想図が異なっていることが紹介されました。これらの絵から、未来の科学像は文化やその時代の制度にも影響されるといった話題になりました。また、江間さんからは来場者に「50年後の未来では何ができているだろう？何ができるといいだろう？」といった質問が投げかけられました。未来の科学を想像することによって人間にはそれを実現する力があることや、新しい科学技術が周囲（社会に）もたらす変化についてまで話しは広がりました。

一方、未来の科学の話題から、そもそも科学って何だろう？といった話題が持ち上がりました。「生物学」や「医療医学」には曖昧な部分がある…、それも科学なの？といった疑問について、増田さんからは、生物学の基本は観察であること、曖昧なものの中でも共通するものを探していくプロセスがあることなどが紹介されました。

対談の全体を通じて「未来の科学」といったテーマから、科学を取り巻く社会についての話題にまで話しが広がりました。またその中で、お二人の研究に纏わるエピソードを数多く紹介していただきました。大きなテーマに沿って話されるお二人の対談に、90分、最初から最後まで聞き入る来場者がたくさんいました。

上野賢也（京都大学理学部 1回生）

■ 2-2-3. アンケート結果（研究者へのメッセージ）

- これからも頑張ってください。おもしろい対談でした。現代の医学の状況などを知ることができました（中学生）
- わかりやすかったです（中学生）
- 医学のこととか何も知らないのでためになりました（中学生）
- とても面白い対談でした。100年後医療がどこまで進んでいるか楽しみです。楽しい時間をありがとうございました（高校生）
- とても面白いお話しでした。ありがとうございました（大学生）
- 日頃の目線考え方と異なることが聞いて新鮮だった（20代）
- 神話だけでなくアニメ等からも想像して考えているとのことで現代の考えが100年後、1000年後に同じように思われていると思うと面白いと感じた（20代）
- 理系と文系の異分野の対談が面白かったです（30代）
- とても抽象的なテーマで内容が広がりすぎて話を聞いていてとても面白かったです（40代）

2-3. 「人付き合いの心理と数理」

■ 2-3-1. 概要

対談タイトル：「人付き合いの心理と数理」

登壇者：厚見悠（京都大学大学院理学研究科 博士課程）

佐藤弥（京都大学白眉センター／京都大学霊長類研究所 特定准教授）

司会：石井杏佳（京都大学理学部 1回生）

日時：3月17日（日曜日）10時30分～12時00分

会場：京都パルスプラザ

参加者：45名





■ 2-3-2. 対談レポート

最初にお二人の自己紹介から始まりました。佐藤さんからは、心と心の触れ合いである「人付き合い」について、実験心理学や神経科学の視点で研究をしていること。人と人の相互作用のメカニズム、すなわち「どのような相互作用があるのか」について調べていることをお話されました。続いて厚見さんの研究内容発表。人と人のつながりをネットワーク（点と線）で表現して、人同士の相互作用により個人個人やグループがどのような振る舞いを示すのかについての研究が紹介されました。

自己紹介のあとは、対談テーマにある「人付き合い」について。「どうすれば友達が増えるか？」といったお題について、お二人がご自身の研究からの知見や考えお話をしていただきました。厚見さんからは、あまり色々な人とコミュニケーションとるのは得策ではないかもしれないこと。共通の友人という関係（ネットワークで表すと三角形）を大事にすると、友達同士でもう一人の友達の話などできてよいことなど、ネットワークの観点から人付き合いについて分析したお話がありました。佐藤さんからは、脳の扁桃体という部分が相手を警戒したり不快に感じたりする感情を司っているが、その感情がどこから来ているのかまでは判断できないこと。よって、いわゆる「吊り橋効果」などを狙ってみては？といった話題を提供していただきました。その後、来場者からは「恋愛関係と友人関係との違いや、恋愛の特徴、恋愛で気を付けるべきことは？」といった質問を皮切りに、「外見の好みは遺伝したりする？」「イヤな人と関わらないためにはどうすれば？」「逆に嫌いな人とうまくやっていくには？」「第一印象の悪さをどうやったら挽回できる？」などなど、多数の質問がお二人に投げかけられました。それらに対して SVR 理論や遺伝と学習について、ミラーニューロンの働きからネットワークに基づくアドバイスまで、お二人ともご自身の研究をもとに質問に対するトピックスをいくつも紹介されました。

そして、「実際に研究の成果を利用してうまく立ち回っている事はありますか？」といった質問では、厚見さんは自分の研究の知名度を上げるために普段いるグループの外にいる人とコンタクトをとられていること。佐藤さんはヒトの「感情を共有したい」という欲求を満たしてあげるため、学生さんの辛い話などを親身に聞くよう気をつけていることを話されました。

対談時間 90 分を通して、退場される来場者はほとんどいませんでした。会場は終始なごやかな雰囲気、来場者とお二人との対話も多く見られました。「人付き合い」といった身近なテーマから、研究について興味・関心を持ってもらえたように思います。

西辻裕紀（京都大学大学院理学研究科 修士課程 1 回生）

■ 2-3-3. アンケート結果（研究者へのメッセージ）

- 大変興味深いお話をありがとうございます。対照的なものを比べることで新たなことが見えてくることがよくわかりました（高校生）
- 人付き合いとはとても難しく、先生方にも解らないことが多いようでした。しかし、だからこそ興味深いのだと改めて思いました（高校生）
- 今後の活動に役立つことを聞いて良かった（高校生）
- 面白かったです。ありがとうございました（高校生）
- 厚見先生の研究をもっと知りたい（高校生）
- 私は心理学に興味があるので、また話を聞きたいと思いました（高校生）
- 楽しかったです（高校生）
- 恋バナ良かったです。恋愛術もいろいろ教えていただきたい（笑）（高校生）
- すごく得るものが多かったです。ありがとうございました（高校生）
- 気になっていた人と話す時に目を見たらいいのかや、肩書きなどの印象について聞いて良かった（高校生）
- 時間を気にせずに楽しめた（高校生）
- 理論的な所の説明が聞きたかった。（シュミレーションについて）（40代）
- 面白かったです（40代）
- 心理と数理の対比が面白かったです（40代）

2-4. 「理系×文系 ガチ」

■ 2-4-1. 概要

対談タイトル：「理系×文系 ガチ」

登壇者：小石かつら（京都大学白眉センター／京都大学人文科学研究所 特定助教）

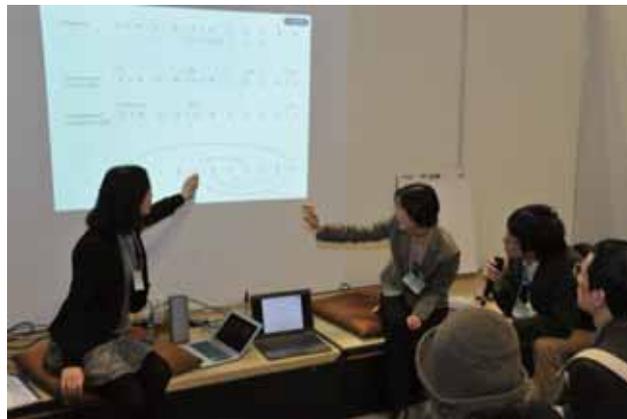
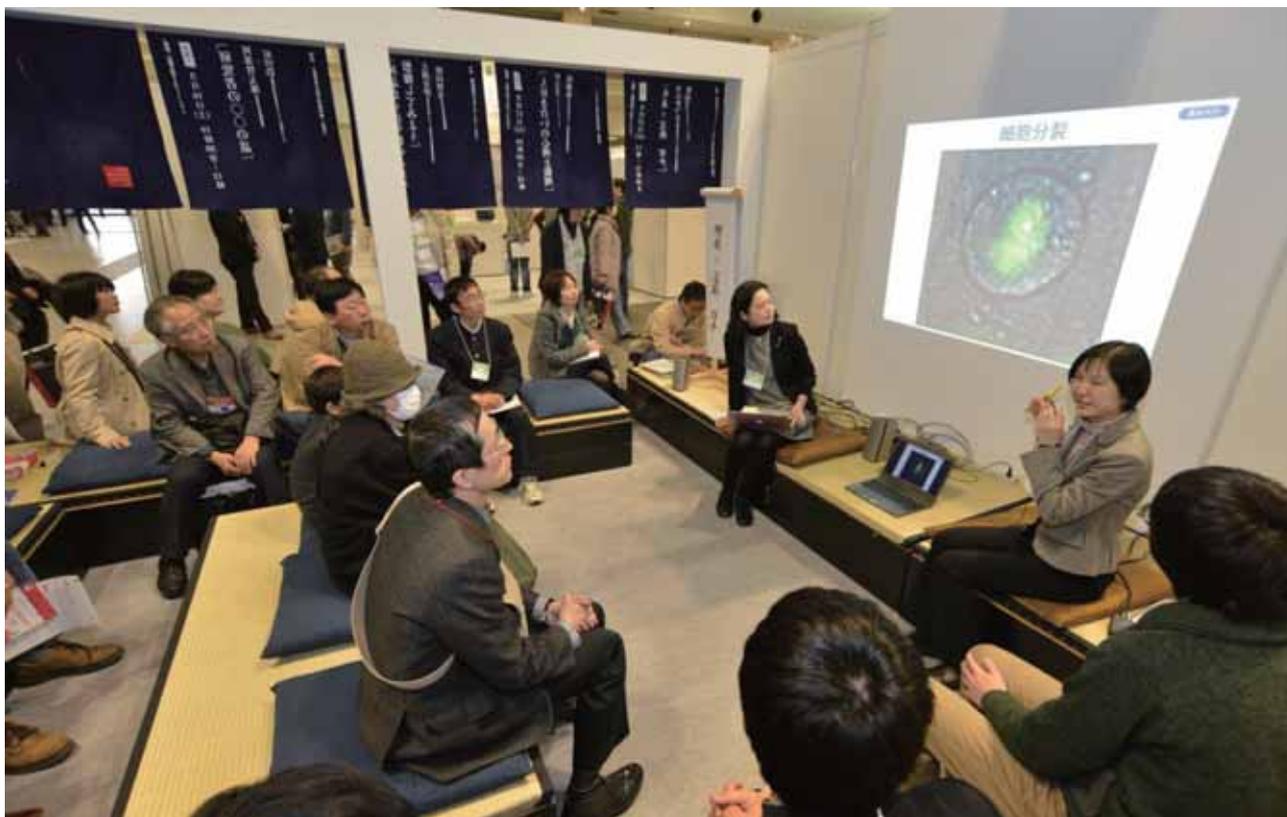
豊島文子（京都大学ウイルス研究所 教授）

司会：西辻裕紀（京都大学大学院理学研究科 修士課程1回生）

日時：3月17日（日曜日）14時00分～15時30分

会場：京都パルスプラザ

参加者：39名





■ 2-4-2. 対談レポート

いわゆる理系と文系まったく異なる女性研究者お二人による対談でした。まずはそれぞれの研究について紹介されました。豊島さんからは細胞分裂の研究について、実際に豊島さんが大学院生時代に撮影した細胞分裂のムービーを映して紹介していただきました。小石さんはオーケストラの演奏会の歴史について。昔の演奏会は今の演奏会のスタイルとは異なり、また第一次世界大戦頃からの変化について紹介していただきました。

お二人の研究に共通点を見いだすことが難しい…といったことから、司会の西辻さんから現在ご自身が大学院で研究されている数学を使って「お二人の研究を結び付ます！」と提案されました。「構造主義」といった数学の分野で構造をもう一次元上から見る考え方を紹介していただきました。

西辻さんの研究紹介から繋がりがみえない（笑）と会場は盛り上がりながら、お二人からは、見方を変えることによって新たな発見をした研究のエピソードを紹介していただきました。豊島さんからは、細胞を観察する時、プレパラートを見る角度を変えて気付いた発見について。小石さんからは、今知られている多くの曲の目録には載ってない曲の構造の発見について紹介していただきました。

また、会場からは「お二人が研究者になった理由を聞きたい」との質問がありました。豊島さんからは、昔から生物が好きだったこと。たくさん細胞が集まって1つの生物ができ、たくさん生物が集まって集団(社会)ができる、というのが面白かったこと。それがきっかけで、その最小構成単位の「細胞」というものを研究しようと思ったことを話していただきました。小石さんからは、音楽とは、作曲者が書いた楽譜が演奏されることで初めて聞くことができる。だから、演奏者は作曲者の意図を、どう音で表現するかが問題となる。そこで自分は「音」より「言葉」を使って、作曲者の意図を伝えたいと思ったことが研究者になったきっかけだと話していただきました。

対談の最後には司会のお二人から感想をもらいました。豊島さんからは、今回の対談で理系文系を問わず、人とは違う見方をすることが大切だと実感したこと。小石さんからは、理系の学問とは「自然をどう知るか」で、文系の学問とは「人間のつくったものをどう知るか」であるので、対象が違うだけで、そもそも研究方法は同じで当たり前ということに気づいたといったコメントをいただきました。

対談は来場者からの質問を受けつつ、お二人も互いに質問をし合いながら進みました。お二人が研究エピソードを紹介する際には、その映像をスライドで投影したり、実際に音楽を流したりと、臨場感ある説明が魅力的でした。また研究内容だけでなく、お二人の「研究者」を知ってもらえる対談だったと思います。

石井杏佳（京都大学理学部 1 回生）

■ 2-4-3. アンケート結果（研究者へのメッセージ）

- とても面白い対談でした。また聞きたいです（高校生）
- おもしろかったです。最後、理系の研究は自然のことを知ろうとすることで、文系は人がつくったものを知ろうとすることというのが、あーなるほどーと思いました（30代）
- 京大の先生らしさが充分に出ていた（60代）
- 小石先生、豊島文子先生の女性同士の対談に興味ありました
- どのように研究を開始したのかが興味深かった

3. アンケート結果（ブース全体の結果のまとめ）

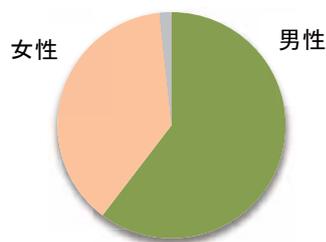
ここで紹介するのは、2013年3月16、17日の2日間に、京都大学ブース「出張」京都大学アカデミックデイを訪れた人全てのデータです。

来場数 161名
アンケート回答数 58名（回収率 36.0%）

来場者属性（アンケートより）

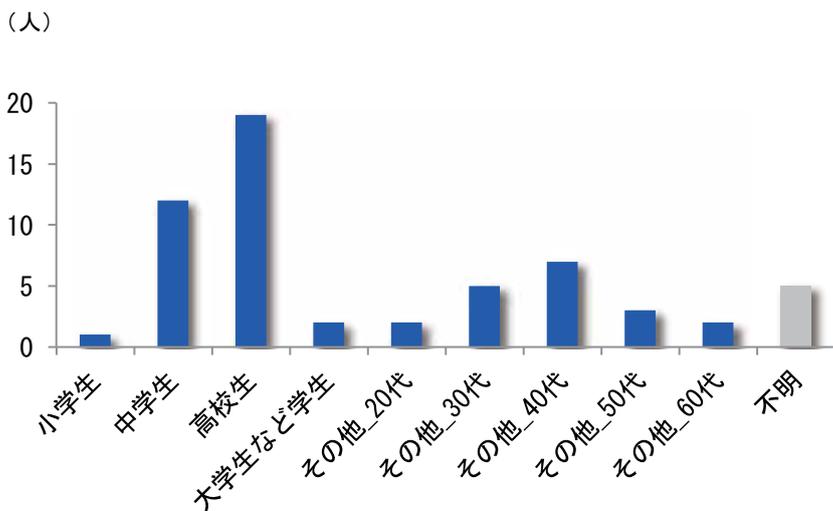
・性別

男性 35人
女性 22人
無回答 1人



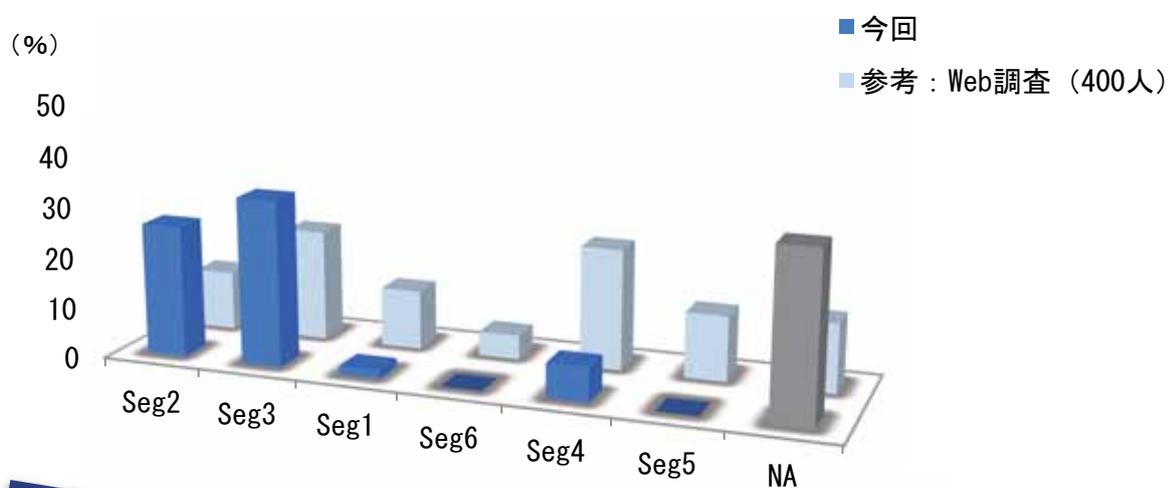
・年代や学年など

学年など	人数
小学生	1名
中学生	12名
高校生	19名
大学生など学生	2名
その他_20代	2名
その他_30代	5名
その他_40代	7名
その他_50代	3名
その他_60代	2名
不明	5名



・セグメント *セグメントについては、「2-1. セグメント資料」を参照。

セグメント	人数
Seg 1	1名
Seg 2	15名
Seg 3	19名
Seg 4	4名
Seg 5	0名
Seg 6	0名
Seg NA	19名



科学・技術への関与度

「科学・技術フェスタ」という名称の催しに足を運んだ人、ということからか、京都大学のブースに立ち寄った方々のほとんどが「科学・技術に関心のある人」でした。

どこで知った？なぜブースにきた？（アンケートより）

・京都大学ブースをどこで知った？

項目	人数
会場に来て初めて知った	36名
京都大学のHP やチラシ	16名
その他	6名

「その他」の詳細：

フェスタ側のHPで知った／別のサイトでフェスタを知った／2011年度の催しにも参加した
上司の対談／上司が参加／友人からの情報

・京都大学ブースに立ち寄った理由（複数回答可）

項目	人数
登壇者に興味があった	9名
対談タイトルがおもしろそうだった	34名
京都大学に興味があった	12名
レイアウト（のれんや畳）が目をつけた	16名
その他	7名

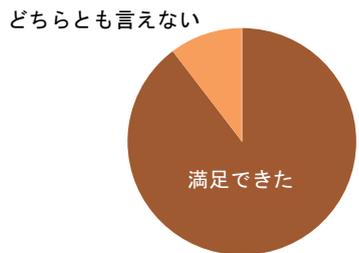
「その他」の詳細：

知人から聞いた／「研究者の〇〇の話」というタイトルで、いろいろな話が聞けると思ったので／
誘われた／すすめられた／上司が参加／座りたかったから／
妹の子供が京都大理科系を卒業していましたので京大に興味あり

対談を聞いて（アンケートより）

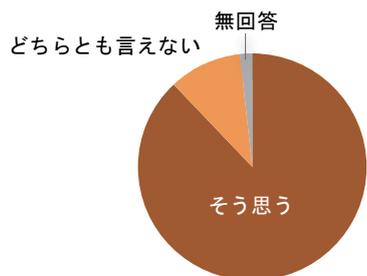
・満足度

項目	人数
満足できた	52名
どちらとも言えない	6名
満足できなかった	0名



・来年もまた来たい

項目	人数
そう思う	51名
どちらとも言えない	6名
そう思わない	0名
無回答	1名



意見・感想など（抜粋）

- ・大学が楽しみです（中学生）
- ・少し京都大学に興味をもちました（中学生）
- ・椅子の高さが落ち着きました（高校生）
- ・時間を気にせず楽しめた（高校生）
- ・研究者との距離が近い形式が良いと思った（30代）
- ・ブースのレイアウトなど楽しいです（50代）
- ・科学と社会との関係をカッコよくデザインしてください（50代）



3-1. セグメント資料（アンケート用紙、分類表）

■ 3-1-1. アンケート用紙（来場者への質問項目）

	「科学・技術フェスタ」出展ブースT-20 京都大学アカデミックデイ	<h1>アンケート</h1>	アンケートにお答えいただくと、 「記念てぬぐい」プレゼント！
本日はご来場ありがとうございました。今後の企画のためにご協力をお願いします。 ご記入はひとつの対談につき一枚です。あてはまるものに 印をつけてください。			
2013.3.16-17			
Q 1 . 本日はどの対談をご覧になりましたか？			
[対談1]阿部賢太郎 × 原田浩「研究者の の話（16日 10:30-12:00）			
[対談2]江間有沙 × 増田智先「神話から百年後の未来を想像してみよう」（16日 14:00-15:30）			
[対談3]厚見悠 × 佐藤弥「人付き合いの心理と数理」（17日 10:30-12:00）			
[対談4]小石かつら × 豊島文子「理系 × 文系 ガチ」（17日 14:00-15:30）			
Q 2 . ご来場前に、京都大学ブース「出張 京都大学アカデミックデイ」を知っていましたか？			
科学・技術フェスタの会場に来て初めて、京都大学ブースの存在を知った			
京都大学のHPやチラシで、科学・技術フェスタの存在を知り、京都大学ブースを訪れた			
その他)			
Q 3 . 京都大学ブース「出張 京都大学アカデミックデイ」に立ち寄った理由をおしえてください。(複数回答可)			
登壇者に興味があったから			
対談タイトルがおもしろそうだったから			
京都大学に興味があったから			
ブースのレイアウト(のれんや量)が目を引いたから			
その他)			
Q 4 . 今日の対談は、総合的にみて満足できましたか？			
満足できた どちらとも言えない 満足できなかった			
Q 5 . 来年もこのような催しがあれば、また来たいと思いますか？			
そう思う どちらとも言えない そう思わない			
Q 6 . 対談に登場した研究者へのメッセージをご自由にお書きください。			
Q 7 . ご意見・ご感想など、ご自由にお書きください。			
最後に、あなたのことについてお聞きします			
それぞれ、最も近いものを <u>1</u> つだけお選びください。			
Q 8 . 科学・技術に関心がありますか？			
とても関心がある 関心がある 関心があるともないとも言えない			
関心がない 全く関心がない わからない			
Q 9 . 科学・技術に関する情報を積極的に調べることはありますか？			
はい いいえ わからない			
Q 10 . 過去、科学・技術に関する情報を調べた際に、探している情報を見つけることができましたか？			
見つけられた。大抵、その内容は容易に理解できる。			
見つけられた。しかし、ほとんどの場合、その内容を理解することは難しい。			
見つけられなかった。ほとんどの場合、探している情報は見つけられない。			
わからない			
Q 11 . ご自身について教えてください。			
小学生 中学生 高校生 大学生など学生 その他(年齢 代)			
Q 12 . 性別			
男性 女性			
ご協力、ありがとうございました。アンケート回収時に記念てぬぐいと交換いたします。*品切れの場合はご容赦ください。			

■ 3-1-2. 分類表（回答パターンによる分類）

京都大学ブースにどのような方が訪れたのかを把握するために、オーストラリアで実施された調査に基づいて、Q8 から Q10 の3つの質問をアンケートに組み込みました（アンケート用紙参照）。それぞれの質問への回答パターンによって、来場者を6タイプ（セグメント）に分けることができます。

Q8. 関心がありますか？	Q9. 調べますか？	Q10. 見つけれられましたか？	セグメント
1 or 2	1	1	2
1 or 2	1	2 or 3	3
1 or 2	2	-	1
3 or 4 or 5	1	-	6
3	2	-	4
4 or 5	2	-	5

セグメント1: Interested in science but not active in searching for science information.
 セグメント2: Interested in science, active in searching for science information and able to find information that they can easily understand.
 セグメント3: Interested in science, active in searching for science information but either unable to find it or when they do find it have difficulty understanding it.
 セグメント4: Neutral towards science and not actively searching for science information.
 セグメント5: Disinterested in science and not actively searching for science information.
 セグメント6: Neutral or disinterested towards science but active in searching for science information.

参考文献

Community Interest and Engagement with Science and Technology in Victoria Research Report - June 2007.

■ 3-1-3. 記念てぬぐい（アンケートと交換）

これはアンケートと引き換えに配布された記念手ぬぐいです（生地サイズ：900×330mm）。

“出張”アカデミックデイのブースの暖簾をイメージしてデザインしました。

（デザイン：永田奈緒美／学術情報メディアセンター コンテンツ作成室）



編集者：白井哲哉（京都大学学術研究支援室）
水町衣里（京都大学物質－細胞統合システム拠点）
元木環（京都大学情報環境機構／学術情報メディアセンター）
デザイン：永田奈緒美（京都大学学術情報メディアセンター）
写真：大森貴生

発行日：2013年4月11日
発行：京都大学国際研究部研究推進課
京都大学「国民との科学・技術対話」ワーキンググループ
京都大学学術研究支援室（UR A室）
問合せ：〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学学術研究支援室
Tel：075-753-5113 E-mail：shirai@kura.kyoto-u.ac.jp